

桑名電軌

西 羽 晃

桑名に路面電車が走っていた姿を見た人は 70 歳代後半以上の人であらう。私はその年齢であるが、昭和 22 (1947) 年 3 月に桑名へ引っ越してきた時には廃止されていたので、路面電車を見たことがない。ただ八間通の中央には、撤去されなかった石畳が残っていた。

桑名駅が現在地に設けられたのが明治 28 年 (1895) 年だが、当時の桑名の中心地である本町付近とは離れた田圃の中であった。駅と本町を結ぶ八間通が大正 14 (1925) 年に作られ、その路面に電車を通すことを、桑名の人たちが計画し、昭和 2 (1927) 年 9 月 17 日に桑名電軌株式会社の路面電車が開通した。当時の三重県下では宇治山田市 (現・伊勢市) に路面電車はあったが、県庁所在地の津市や発展目覚ましい四日市市にはなくて、桑名人の自慢の種であった。株主は桑名の人々が殆んどであり、社長は水谷吉兵衛、役員には桑名町の有力者たちが名を連なった。



寺町の角にあった旭ビルの前を通る電車

停留所は桑名駅前、車庫前、三崎橋、旭橋、田町、本町であり、のちの昭和 11 年に国道停留所が増えた。単線運転であり、途中の三崎橋付近のみ複線となって、すれ違いが出来た。路線は約 1 km であり、世界一短い鉄道と言われた。全区間を 4 分で運転し、会社の広告によると 12 時まで 5 分乃至 10 分間隔で運転されて、大都会なみである。

開業当初は乗客も多くて好成績をおさめ、将来は桑名を一周する環状線、更に富田まで延長する計画もあったが、それらは実現できなかった。その理由はバスや自転車が普及してきたことである。

昭和の日本は戦時体制に入っていくが、昭和 16 年 12 月 8 日、アメリカ、イギリスなどに宣戦布告し、太平洋戦争に突入した。戦争遂行

のため、あらゆる国民生活は圧迫され、不要不急の鉄道も整理統合されるようになった。そのため桑名電軌は廃止の対象となった。昭和18年12月28日に開かれた臨時株主総会で会社廃止の件が上程された。それによると「戦力増強ノ国策ニ順応、営業上ノ設備及人的資源ノ全部転換ヲ行フタメ・・・廃止セントス」とあり、国の方針に従い、レールなどは溶かされて兵器や弾丸となり、従業員も兵士になるために桑名電軌は廃止することになった。

昭和19年1月10日に最後の運転を行って、桑名の人たちが自慢した桑名電軌の火が消えてしまった。